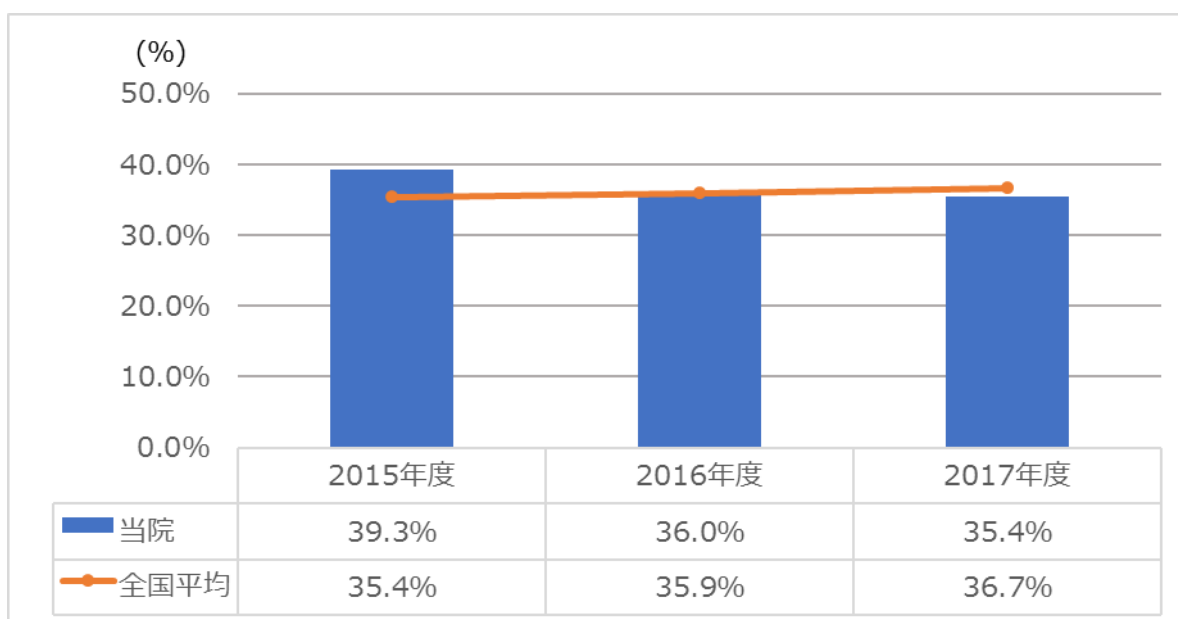


指標 2 4 5 大癌初発に対する入院のうち StageI までの割合（胃がん・大腸がん・肺がん・肝がん・乳がん）



<定義>

分子	分母のうち、StageI までの割合
分母	5 大癌初発に対する初回入院（胃がん・大腸がん・肺がん・肝がん・乳がん）
期間	2015 年度～2017 年度（1 年毎に集計）
対象	上記期間の退院患者
値の解釈	高いほどがんの早期発見の取り組みが充実している

<解説>

癌治療においては早期に発見し適切な治療を行うことが重要です。当院でも地域の医療機関と協力して早期がん（StageI）の治療を積極的に行っています。

※ 本データは厚生労働省提出用の D P C データを基に作成されています。また、全国平均の値については、当院が参加している「医療の質と経済性に関する実態調査【京都大学大学院 QIP 事業】」における「医療の質の指標」の計測結果（事業に参加する全国の病院の平均値）を用いています。

【参考 URL】

<http://www.kch.kagoshima.jp/about/qip.html>（当院の QIP 参加について）

<http://med-econ.umin.ac.jp/QIP/CI.html>（QIP における計測結果）